



日本の知恵、
プラスチックの知恵

漆

漆の機能性を受け継ぐ、 未来の樹脂

朝のひと碗の味噌汁は、食卓に穏やかなぬくもりを運んでくれます。外観の美しさだけでなく、熱々の汁物を入れたお椀を手にとって食べられるのは、実はお椀に塗られた漆の「いい仕事」ぶりの機能性によるもの。下塗り、中塗り、上塗りと幾重にも塗り重ねられる塗膜は、主成分ウルシオールと呼ばれるフェノール性化合物による天然のプラスチックで、数年経つと鉄と同一ような強度を持つと言われています。耐熱性、耐水性、防腐蚀性に優れるだけでなく、塩分やアルコールにも強いと言われている漆は、万能な塗料であり接着剤としても古くから活用されてきました。一方、住友ベークライトのフェノール樹脂も、その発明から1世紀を過ぎ、耐熱性、電気絶縁性、薬品性などの優れた機能を味方に、高機能プラスチックとして未来へ向けて進化し続けています。



プラスチックのバイオニア

フェノールの夢、100年

ベークランド博士の
今につながる業績

1907年(明治40)、その名前の由来にもなった米国のベークランド博士により、ベークライトと呼ばれるフェノール樹脂が発明されました。

プラスチックのバイオニア